

日々の祈り

2021年3月1日(月)~6日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・受難節(レント)を過ごしています。わたしたちの救いのために、イエスさまが苦難と十字架を負って下さったことを覚え、悔い改めと感謝の時を過ごすことが出来るように。
- ・九州連合長老会に連なる諸教会の歩みを覚えて。
- ・弱さや、苦しみの中にある兄弟姉妹、また隣人のために。

1日(月)

ルカによる福音書 12章 31~32節

ただ、神の国を求めなさい。そうすれば、これらのものは加えて与えられる。小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。イエスさまは、わたしたちが生きるために多くの思い煩いを抱えていることをご存知です。心があちこちへ散らばり、あくせくしていることをご存知です。しかし、その日々の中でまず一番に祈り求めるものは「神の国」であると教えて下さいました。神さまのご支配です。神さまの救いです。神の子として生きる道です。そして「わたしたちの父」は、わたしたちを選び、それを喜んで与えたいと願っておられます。この父なる神さまと共に歩むことをこそ求めるなら、わたしたちに必要なものはすべて与えられるし、何も恐れず、心から安心していて良いのです。

2日(火)

申命記 8章 17~18節

あなたは、「自分の力と手の働きで、この富を築いた」などと考えるはならない。むしろ、あなたの神、主を思い起こしなさい。富を築く力をあなたに与えられたのは主であり、主が先祖に誓われた契約を果たして、今日のようにしてくださったのである。

わたしたちの命は、神さまのものです。また、わたしたちが持っているすべてのものも、神さまから与えられたものです。すべての源は主なる神さまにあります。そして、この主なる神さまは、わたしたちに対して誠実なお方であり、心を尽くして面倒を見て下さるお方です。この、わたしたちの主なる神さまをいつも思い起こし、片時も忘れることがありませんように。

3日(水)

ヨハネの黙示録 2章 8~9節

スミルナにある教会の天使にこう書き送れ。『最初の者にして、最後の者である方、一度死んだが、また生きた方が、次のように言われる。「わたしは、あなたの苦難や貧しさを知っている。だが、本当はあなたは豊かなのだ。」

わたしたちを襲う苦難があります。わたしたちを追い詰める貧しさがあります。主はそれをよくご存知であると言われます。しかし、本当はあなたは豊かなのだ、と言われます。主に依り頼むしかない、弱い、小さい、貧しい者だからこそ、ここに立っているのは、いま生きているのは、ただ主の豊かな恵みによることに他ならないからです。

4日(木)

テサロニケの信徒への手紙一 5章 4~6節

しかし、兄弟たち、あなたがたは暗闇の中にはありません。ですから、主の日が、盗人のように突然あなたがたを襲うことはないのです。あなたがたはすべて光の子、昼の子だからです。わたしたちは、夜にも暗闇にも属していません。従って、ほかの人々のように眠っていないで、目を覚まし、身を慎んでいきましょう。

わたしたちは、神さまのご支配の中を歩んでいます。救いの恵みを知らされ、罪の赦しに与り、永遠の命を歩み始めています。わたしたちは光の子です。ですから、闇のような世にあっても、この確かな光を、恵みの現実を、いつもしっかりと見つめていきたいのです。そして、約束された神の国の完成の日を、神さまの御心に従いつつ、目を覚まして待ち望む者でありたいのです。

5日(金)

詩編 123編 1~2節

目を上げて、わたしはあなたを仰ぎます／天にいます方よ。御覧ください、僕が主人の手に目を注ぎ／はしためが女主人の手に目を注ぐように／わたしたちは、神に、わたしたちの主の目に目を注ぎ／憐れみを待ちます。

次の主日礼拝の御言葉です。わたしたちは、神さまの御業に期待して、恵みを待ち望んで、神さまの御手から目を逸らさずに、注意を注いで見つめ続ける者でありたいと願います。いつでもその御業のために働くことが出来るように、そして、成される御業の恵みをしっかり受け取ることが出来るように、どんなときにも神さまに目を注ぎ、憐れみを待つのです。

6日(土)

ルカによる福音書 12章 37節

主人が帰って来たとき、目を覚ましているのを見られる僕たちは幸いだ。はっきり言うておくが、主人は帯を締めて、この僕たちを食事の席に着かせ、そばに来て給仕してくれる。

明日の主日礼拝の御言葉です。イエスさまは、わたしたちに目を覚ましているように、と言われます。それは、イエスさまをいつも見つめていること。イエスさまが救いを完成して下さる日を、希望を持って待ち続けるということです。くたびれて、他のことに疲れ果てて、救いから目を逸らしたり、目を閉じてイエスさまのお姿を見失ったりしてはなりません。いつでも準備を整えて、目を覚まして、祈り続ける者でありたいのです。主の天の食卓に共に与る約束を待ち望みながら。

聖句:日本聖書協会『聖書 新共同訳』